

## I 実践

### 1 研究主題

学校、家庭、地域と連携した人権教育のあり方

— ICT・インターネットにおける人権侵害についての道徳教育を通して—

#### (1) 主題設定の理由

本校は、「自ら学び、考え、実行する生徒」「思いやりのある心豊かな生徒」「たくましく生きる健康な生徒」を3つの教育目標として掲げている。その中でも「思いやりのある心豊かな生徒」が人権教育と直接関わりのある目標であり、それを受けて、本校では、「生命を尊重する心、他人を思いやる心、正義感や公正さを重んじる心、互いの個性を認め合う心」などをもつ生徒の育成が重要課題であると考えている。

人権教育や人権問題は、基本的人権に関わる問題なので、教師自身の正しい認識を高めていくことと、生徒たちに「自由とは何か」「責任とは何か」といった概念を理解させることや、自他の人権を守る行動を実践化することを進めてきた。さらに、家庭・地域社会との連携及び啓発活動をホームページや学校だより等を活用して行ってきた。

#### (2) 研究の内容

##### ア 研究主題のとらえ方

###### (ア)「学校、家庭、地域の連携」について

学校を地域の教育センターととらえ、生徒に「いい体験」「いい学び」をさせてくれる地域の人々との橋渡し役を果たすととらえる。

###### (イ)「人権教育」について

「自己や他者を認め、温かくかかわり合いながら、人や地域社会にできることを探し、実行する態度を育成すること」ととらえる。

###### (ウ)「ICT・インターネット」について

本校では、「みんなで作る駒王中」という独自のホームページを作成している。地域の人々、保護者、生徒、教諭が共有し、学校での出来事について知ることができる環境にあり、地域とのつながりを深める役割を果たしているのとらえる。

##### イ 具体的な研究の進め方

本校の特徴でもある「みんなでつくる駒王中」のホームページを活用し、インターネットにおいて、様々な情報の交換や閲覧が可能であることを認識させる。また、インターネットの中には、誹謗・中傷の書き込みが行われる掲示板や「出会い系サイト」のように顔のわからない相手と会話をすることができる掲示板があることを知る必要がある。そこで、インターネットにおける誹謗・中傷を通して、「自由とは何か」「責任とは何か」といった概念や、「自他の人権を守ることは何か」について考えられる授業を実践し、自己や他者を認め、温かくかかわり合いながら、地域社会の一員としての自覚や資質を身に付け、人権感覚を磨くことで主題に迫りたいと考える。

### 2 実践内容（実践 一 道徳 一）

(1) 単元名 「ネットいじめを許さない！」（出典「大人が知らない ネットいじめの真実」）

(2) 単元設定と理由

中学生の時期は、親や教師など大人への依存から離れ、友達を自分の行動規準にすることで、独立しようとする発達段階にある。そのため、心の底から打ち明けて話せる友だちを得たいと願う気持ちが高まってくる。同時にこの時期は、感情の不安定さから些細なことで感情の行き違いが生じ、友達関係が台無しになることもある。中でもインターネット上で中傷する「ネットいじめ」に視点をあて、見えないう場所でのいじめの実態とインターネットを扱う「人」の心の在り方について知り、友達を大切にす

心に迫りたい。

そこで、指導にあたっては、その場だけの関心や自分に都合のいい相手とだけの狭い範囲だけでなく、視野を広げ、生涯にわたり信頼に支えられた友だちの大切さに気づき、友情を育てていこうとする心情を深めていくことができるよう本題材を設定した。

(3) 資料の生かし方

本資料は、実際にインターネットに書き込みをされた中傷内容をもとに、ネットいじめがいかに卑怯で相手を傷つけるものであるかを考えるための資料である。「いじめとは何か」を文部科学省の定義の変化をもとに考えさせるとともに、ネットいじめは、暴力をふるうものと何が違うかをとらえさせ、「自他の人権を守ることとは何か」について考える場としたい。

(4) 本時の指導

いじめとは何なのか、自他の人権を守るとはどういうことかについてグループディスカッションを通して検討し合い、友情についての道徳的価値の自覚を深める。

(5) 考察及び検証

学習活動・内容	活動のようす	テーマに関する考察
1 2005年度までのいじめの定義と2006年度からのいじめの定義の違いをとらえる。	○いじめとはどういうことか定義をみることで、興味をもって考えていた。 ○「弱い」「強い」という内容でいじめが成立するわけではないことに視点をあてることができた。	○話し合い活動が活発に展開できるように小グループを4～5人で編成した。
2 力の強い人がいじめられる、力の弱い人でもやれる「いじめ」とはどんなものか考える。	○ワークシートに自分の考えを多く書く生徒が多かった。	○ワークシートに考えや意見を書くことで発表が得意な生徒へは自分の意見をまとめるきっかけとし、発表が苦手な生徒へは発表しやすくするための手段として有効であった。
3 資料を読む。 (1) 教師の朗読を聞き、ネットいじめは、暴力をふるういじめと何が違うか話し合う。 (2) グループごとに発表をする。	○「見えないところでの陰口」という意見が多く出た。 ○小グループごとに自分たちの意見を交換することができていた。 ○小グループで司会者を中心としてワークシートを活用して話し合いが行われていた。	○司会者を立てたことで小グループでも一人一人が話し合いに参加する意欲が高まっていた。 ○生活の中でネットいじめのようなものを見たり、聞いたり、遭遇したりしたときに自分で考え、主体的に誠実な行動がとれるように、この授業で学んだことを今後も継続して助言していきたい。
4 いじめやネットいじめから「自他の人権を守るためにどのようなことが必要か」グループディスカッションを行う。	○グループごとにまとめた意見を発表することで、互いの意見を聞き、納得したり反論意見を述べたりする生徒の姿が見られた。	○教師の体験談やプロフィール掲示板、携帯ゲームサイトの話をする
5 教師の説話を聞く。		ことで、ネット上での見えない部分について共感する生徒が多かった。

3 研究の成果

「見えない形のいじめ」を題材として授業を進めることで、生徒のなかに「本当に強い人」とはどういう人のことを言うのか考えることができたと考える。また、ネット上だけでなく実生活において、コミュニケーションを適切にとることで自分や他者を思いやるということに気づけた生徒が多く見られた。

II 今後の課題

インターネットや携帯電話を通じて、いつでもどこでもネット上に書き込みができるだけでなく、顔を見ずに言葉を発することができるようになってきていることで他者を傷つける言葉を簡単に使うことの恐ろしさを知る第一歩となった。今後の生活において、「みんなで作る駒王中」も活用しながらネットモラルや掲示板の正しい使い方について学び、地域の人、社会と正しいコミュニケーションがとれる態度を育てていきたい。